

## 平成25年度全国学力・学習状況調査の結果について（お知らせ）

平成25年度全国学力・学習状況調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の一部分であることなどに留意して分析を進め、このたび、名寄市小・中学校の児童生徒の学力や学習状況の傾向をまとめることができました。

つきましては、明らかになった課題を克服し、さらに児童生徒の学習改善や学習意欲の向上を図るために、学力や学習状況の傾向及び指導の改善策などについてお知らせいたしますので、皆様のご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

### 1 小学校の教科に関する調査結果の概要について

※ 「全国」とは全国の平均正答率のことです。

□・漢数字・（ ）・記号は設問番号を示しており、調査問題は国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

また、改善策の例については、国立教育政策研究所の解説資料から一部を抜粋して掲載しています。

**国語 A** ～ 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

#### <全国と比べて成果が見られた設問>

- 1一（3）学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む。〔問題：めずらしい植物を採集する〕
- 1二（3）学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く。〔問題：委員会をもうける〕
- 3二（2）接続語「だから」のもつ働きを理解する。
- 4ウ 「言葉の使い方」に関する資料を読み取り、全体から分かることを書く。
- 5イ マナーに関する広告を読み、声をかけるときの具体例を捉える。

#### <全国と比べて課題が見られた設問>

- 1二（2）学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く。〔問題：バスがていしゃした〕
- 3一 文のはじめの5文字を丸で囲む。
- 5ア マナーに関する広告を読み、広告を見る人に行動を促そうとする内容を捉える。

#### 【改善策の例】

- 学習した漢字を繰り返し書いて練習することのみならず、様々な場面で実際に使用することで、確実に習得できるように指導することが大切である。その際、漢字のもつ意味を考えながら正しく使ったり、同音異義や同訓異義の漢字に注意して使ったりするように指導することも大切である。
- 1つの内容を1つの文に簡潔に書いたり、2つ以上の内容を、必要に応じて1つの文にまとめて書いたりする指導が考えられる。また、その反対に、2つ以上の内容が含まれた1文を内容ごとに複数の文に分けて書いたり、箇条書きにしたりするなど、言語を操作する指導も大切である。
- 広告をはじめ、新聞や雑誌、情報誌などを内容や形式の両面から注目し、編集の特徴を捉えることができるように指導することが大切である。

**国語 B** ～ 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

＜全国と比べて成果が見られた設問＞

③一イ 2人の推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由を捉える。

③一ウ 2人の推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由を捉える。

＜全国と比べて課題が見られた設問＞

②一 目的や意図に応じ、必要な内容を適切に書き加える。

②二 目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用して書く。

【改善策の例】

○引用については、テーマや見出しなどに合わせて内容を選択したり、引用した内容が目的や意図に合っているか否かを判断したりすることができるように指導することが大切である。また、引用する内容が全体の分量に比べて適切な量になるように全体とのバランスを考えて書くことも指導する必要がある。さらに、原文を正確に引用することや、引用した内容と自分の考えを書いた文章との関係を考えて書くことも指導する際に重要である。

**算数 A** ～ 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

＜全国と比べて成果が見られた設問＞

① (6) 同分母の分数の加法の計算をすることができる。〔問題：2と $5/7$ と $1$ と $1/7$ 〕

⑤ (2) 1 a (1アール) の面積と等しい正方形の一辺の長さを理解している。

⑨ 棒グラフの棒の長さや最小目盛りに着目して、数値が最も大きい項目とその数値を読み取ることができる。

＜全国と比べて課題が見られた設問＞

① (7) 乗数が整数である場合の分数の乗法の計算をすることができる。〔問題： $2/9 \times 4$ 〕

④ 単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解している。

⑧ (2) 割合が100%を超えるとき、基準量と比較量の大きさの関係を理解している。

【改善策の例】

○単位量の選び方によって、混み具合は数値が大きい方が混んでいる場合と、数値が小さい方が混んでいる場合があるので、数値の意味を理解して判断できるようにすることが大切である。例えば、 $1\text{ m}^2$  当たりの人数で比べる場合は、人数が多い方が混んでいることや、また逆に、一人当たりの面積で比べる場合は、面積が小さい方が混んでいることを、単位量当たりの大きさを求める式と図とを対応させて確認することが考えられる。

○割合の学習においては、基準量、比較量、割合の示された具体的な場面を式、図、数直線などに表し、それらの関係を理解することが必要である。また、基準量、比較量、割合のそれぞれを計算で求めることができるようにすることが必要である。このような学習を踏まえて、例えば、50%や120%などに当たる大きさが、基準量よりも小さくなるか大きくなるかを計算しなくても判断できるようにすることが大切である。

**算数B** ～ 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

＜全国と比べて成果が見られた設問＞

- 1 (2) 三つの買い方の中から最も安くなる買い方を選択し、その選択が正しい理由を記述できる。
- 4 (2) 5列10番の座席の位置を基に、2列4番の座席の位置を表すことができる。

＜全国と比べて課題が見られた設問＞

- 2 (1) 示された平均を求める式から、その計算の結果が何を求めているのかについて理解している。
- 2 (2) 飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選択することができる。
- 4 (1) 単位量当たりの大きさなどに着目して、二つの数量の関係の求め方を記述できる。
- 4 (3) 示された式に数値を当てはめて計算し、計算の結果の大小を基に判断することができる。

**【改善策の例】**

○下の表のように、飛び離れている数値があっても使うときや使わないときがある場面を基に、その値を除外するかどうかを吟味する活動を取り入れ、平均を求めることが考えられる。

図書館の貸出冊数						ソフトボール投げの記録					
曜日	月	火	水	木	金	回数 (回目)	1	2	3	4	5
貸出冊数 (冊)	31	6	25	32	26	記録 (m)	31	6	25	32	26

**貸出冊数の平均**  
 $(31 + 6 + 25 + 32 + 26) \div 5 = 24$   
 5日間の貸出冊数の平均を求めるので、火曜日の6冊を加える。

⇔

**ソフトボール投げの記録の平均**  
 $(31 + 25 + 32 + 26) \div 4 = 28.5$   
 2回目はうまく投げられなかったと判断し、除外する。

○身の回りには、一つの量だけでは比べることができない事象がある。そのような事象は、どのような比べ方をすればよいか、どのように数値化したらよいかについて考えられるようにすることが大切である。その際、単位量当たりの大きさを基に、二つの量のうち一方をそろえることで、他方の量の大小を比較できるようにすることが大切である。

## 2 中学校の教科に関する調査結果の概要について

※ 「全国」とは全国の平均正答率のことです。

□・漢数字・( )・記号は設問番号を示しており、調査問題は国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

また、改善策の例については、国立教育政策研究所の解説資料から一部を抜粋して掲載しています。

### **国語A** ～ 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

#### <全国と比べて成果が見られた設問>

- 8二2 文脈に即して漢字を正しく読む。〔問題：社会を風刺する〕
- 8二3 文脈に即して漢字を正しく読む。〔問題：山々が連なる〕
- 8三イ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。  
〔問題：友達に将来の（1 抱負 2 初心 3 意志 4 感想）を話す〕

#### <全国と比べて課題が見られた設問>

- 2二 随筆を読んで、描写の効果を考え、内容を理解する。
- 5二 説明的な文章を読んで、文章の展開に即して内容を捉える。
- 7二 グラフを基に文章を書く際に、段落の役割を考えて文章を構成する。
- 8六 修飾語と被修飾語の照応について理解する。
- 8七1 比喩を用いた表現について理解する。

#### 【改善策の例】

- 随筆を読む際には、描かれている出来事や経験などを通して、筆者の感想や感慨を捉えることが大切である。その際、自分の経験と結び付けながら筆者の言動の意味を考えたり、その背景を想像したりすることが有効である。その上で、筆者の感想や感慨について、自分なりの感想をもつことが大切である。
- 説明的な文章を読む際には、説明されている様々な事柄を正確に理解することが大切である。その際、個々の内容を比較したり関係付けたりしながら読むことが重要である。指導に当たっては、描かれている事柄の共通点や相違点をまとめながら読んだり、複数の本や情報を併せて読んだりするような学習活動が考えられる。
- 事実を基に考察したことを述べる文章などを書く際には、自分の考えを明確に表現するために、段落の役割を考えて書く必要がある。段落には、問題や課題について述べる、集めた材料について分析する、自分の考えや意見を述べるなどの役割がある。それらの役割を踏まえた上で、例えば構成メモを作って文章を書くなどの学習活動が考えられる。
- 文の成分の照応について学習する際には、主語と述語の照応や、修飾語と被修飾語の照応などを確かめたり、その適切さを考えたりすることが大切である。全ての領域の指導において、言葉の特徴やきまりに関する事項を適宜取り上げ、学習に生かすことが重要である。

**国語B** ～ 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

<全国と比べて課題が見られた設問>

- 1二 説明的な文章を読んで、図と文章との関係を捉える。
- 1三 説明的な文章を読んで、課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える。
- 2三 文学的な文章を読んで、文章の内容について、根拠を明確にして自分の考えを書く。
- 3二 説明的な文書とグラフを読む際に、情報を関連させて読む。

**【改善策の例】**

- 文章の中に図表がある場合とない場合とを比較したり、既習の説明的な文章を複数取り上げて、図表が用いられている意図の違いを明らかにしたりする学習活動などが考えられる。また、このような学習を、説明的な文書を書く際に生かしていくことが大切である。
- 読んだ内容を基にして話題を広げ、知りたいことや調べたいことを書き出したり、疑問に感じたことを出し合って整理したりして、課題を設定する学習活動などが考えられる。また、見出した課題を解決するためには、情報の収集が必要になる。情報を集める手段としては、学校図書館や地域の図書館、公共施設、コンピュータや情報通信ネットワークなどの利用が考えられる。これらの手段の特徴を理解し、自分の課題に合った手段を選択して活用することが大切である。
- 感想を交流する際に、同じ部分を根拠にしている者同士でそこから感じたことを比べたり、感じたことや考えたことが似ている者同士で根拠となる部分を比べたりする学習活動が考えられる。
- 課題の解決に関わるキーワードを基に、文章や図表などから収集した情報を対照表にまとめたり、それらの関係を図式化したりする学習活動が考えられる。

**数学A** ～ 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

<全国と比べて成果が見られた設問>

- 11 (2) 一次関数の表から、変化の割合を求めることができる。

<全国と比べて課題が見られた設問>

- 2 (1) 整式の加法と減法の計算ができる。〔問題： $2(5x + 9y) - 5(2x + 3y)$ 〕
- 8 証明の必要性和意味を理解している。
- 10 (4) 反比例の式から、グラフをかくことができる。〔問題： $y = 6/x$ のグラフ〕
- 11 (1) 一次関数の式について、 $x$ の値に対応する $y$ の値を求めることができる。

**【改善策の例】**

- $2(5x + 9y) - 5(2x + 3y)$ を $33y$ や $12y$ などと誤って計算した例を取り上げ、与えられた式と計算結果である $33y$ や $12y$ の $x$ と $y$ に具体的な数を代入して、それぞれの式の値が一致しないことを確認する活動を取り入れることが考えられる。

- 証明の必要性和意味についての理解を深められるようにするために、ある図形について証明された命題は、その仮定を満たすすべての図形について例外なく成り立つことを捉える場面を設定することが考えられる。
- 反比例のグラフをかく活動を通して、反比例についての理解を深められるようにするために、反比例のグラフは原点について対称な2つのなめらかな曲線になることを理解できるようにすることが考えられる。
- 一次関数  $y = 2x - 1$  について、 $x$  の値に対応する  $y$  の値を求めたり、 $y$  の値に対応する  $x$  の値を求めたりできるようにすることが考えられる。

## **数学B** ～ 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

### <全国と比べて課題が見られた設問>

- 1 (1) 与えられた情報を言葉で表された式に基づいて処理することができる。  
〔問題：ウォーキングを行う際の目標心拍数を求める式「目標心拍数=88-0.4×年齢+0.6×安静時心拍数」に基づいて、15歳の優子さんの安静時心拍数が80のときの目標心拍数を求める〕
- 1 (3) 事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明することができる。  
〔問題：安静時心拍数が年齢によらず一定であるとするときの目標心拍数の変わり方を選びその理由を説明する〕
- 5 (1) 資料から必要な情報を適切に読み取ることができる。
- 6 (1) 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。  
〔問題：1辺に5個ずつ基石を並べて正三角形の形をつくったときの、基石全部の個数を求める〕
- 6 (2) 数学的な結果を事象に即して解釈することができる。  
〔問題：基石全部の個数を求める式  $3(n-1)$  に対応する囲み方を選ぶ〕

### 【改善策の例】

- 言葉で表された式の意味を捉えられるようにするために、言葉で表された式に数を代入し、式の値を求めるなどの活動を取り入れることが考えられる。
- 実生活における事象を数学的な解釈に基づいて考察できるようにするために、一次関数の変化の割合が一定であることなど、関数の性質に関連付けて解釈し、事柄が成り立つことを説明する根拠として使えるようにすることが考えられる。
- 資料の傾向を読み取るために、収集した資料とその分布の様子を表したヒストグラムとの対応を考える場面を設定することが考えられる。(※ヒストグラムとは、バラツキの分布状態を棒グラフで表示したもの)
- 事象を数学的に考察できるようにするために、数量の関係や法則などを式に表したり式を事象に即して解釈したりする活動を取り入れることが考えられる。

### 3 小学校の児童質問紙調査、中学校の生徒質問紙調査の結果の概要について

※ 「全国」とは全国の児童生徒が回答した割合のことです。  
調査問題は国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

#### ◆ 小学校の児童質問紙調査の結果の概要について

##### <全国と比べて望ましい傾向を示した項目>

- ・ 普段（月～金曜日）、午後10時より前に寝る。
- ・ 家で、学校の授業の予習をしている。
- ・ 家で、学校の授業の復習をしている。
- ・ 普段の授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っている。
- ・ 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している。

##### <全国と比べて努力を要する傾向を示した項目>

- ・ 自分には、よいところがあると思うか。→「そう思う」という割合が低い。
- ・ 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム含む）をするか。→「2時間以上」という割合が高い。
- ・ 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強（学習塾や家庭教師含む）をするか。→「2時間以上」という割合が低い。

#### ◆ 中学校の生徒質問紙調査の結果の概要について

##### <全国と比べて望ましい傾向を示した項目>

- ・ 読書は好きである。

##### <全国と比べて努力を要する傾向を示した項目>

- ・ 自分には、よいところがあると思うか。→「そう思う」という割合が低い。
- ・ 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム含む）をするか。→「2時間以上」という割合が高い。
- ・ 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強（学習塾や家庭教師含む）をするか。→「2時間以上」という割合が低い。
- ・ 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強（学習塾や家庭教師含む）をするか。→「2時間以上」という割合が低い。
- ・ 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書く。

### 【小・中学生共通の改善策の例】

- 児童生徒に自分のよさや可能性を実感させるために
  - ・学校では、特別活動で、児童生徒一人一人のよさが発揮できる係活動や集会活動を仕組み、他の児童生徒とかかわりながら成長できる場を意図的につくります。
  - ・学校では、児童生徒が職場体験などの体験活動を通じて学ぶことや働くことの意義を理解し、望ましい勤労観や職業観を身に付けることができるよう指導体制の充実を図ります。
  - ・家庭では、大人にとって取るに足らないことでも、子どもの努力や成功を認め励まし、自信や有用感を育てるように働きかけてください。
- 家庭学習の充実を図るために
  - ・学校では、家庭学習の手引などを活用し、学年に応じた学習方法や学習時間の定着、1日の生活リズムの確立などについて指導します。
  - ・家庭では、「早寝・早起き・朝ご飯」の取組やテレビゲームの時間を少なくする取組などを通して生活のリズムを整え、子どもが集中して学習できる環境づくりと子どもの努力を認め励ます声かけなどに努めてください。

## 4 学力向上の取組について

これまでの全国学力・学習状況調査の結果から、本市の児童生徒においては、各教科の一部で基礎的・基本的な知識や技能の定着に徐々に改善の兆しが見られるものの、基礎学力をはじめ、①根拠を明らかにして考える、②物事を関連付けて考える、そして、③考えたことを、条件に応じて、まとめ・表す、といった力を身に付けさせることや、家庭での学習習慣の確立を図ることなどが継続的な課題となっています。

このような成果と課題を踏まえ、名寄市教育委員会では、授業改善と望ましい生活のリズムの定着を「車の両輪」と位置付け、名寄市教育改善プロジェクト委員会を中心として市内の小・中学校が一体となった総合的な学力向上の取組をさらに推進してまいります。

### 【主な重点】

- (1) 学習内容を確実に身に付けさせるために、個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導など指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図ります。
- (2) 思考力、判断力、表現力等を育むために、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、言語活動の充実を図ります。
- (3) 授業を効率的に進め、児童生徒の自ら学ぶ態度を養うため、すべての小・中学校で一貫した学習規律の確立を図ります。
- (4) 望ましい生活のリズムの定着を図り学習習慣を確立するために、「早寝・早起き・朝ご飯」運動を継続するとともに、授業の内容と関連付けた宿題、習熟の程度に応じた宿題などの工夫を図ります。